

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平成25年度病虫害発生予報第2号

平成25年 5 月 2 日
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量	
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	やや少	モモ	ナシヒメシクイ	早	少	
	ヒメトビウンカ	—	少		カメムシ類	やや遅	やや少	
	縞葉枯病	—	やや多	ブドウ	灰色かび病	やや遅	並	
	ツマグロヨコバイ	—	やや多		べと病	やや遅	並	
	萎縮病	—	並	キュウリ等	灰色かび病	—	やや多	
イネミズウムシ	並	並						
麦類	アブラムシ類	—	並	イチゴ	うどんこ病	—	並	
	ヤノハモグリバエ	—	少		タマネギ	べと病	—	並
ジャガイモ	疫病	並	やや多	ナス等	ミナミキイロアザミウマ	—	並	
モモ	灰星病	—	やや少		アブラナ科	アブラムシ類	—	並
	黒星病	やや遅	並	野菜		コナガ	—	少
	せん孔細菌病	やや遅	やや少	キク	アブラムシ類	—	やや多	
	褐さび病	やや遅	並					
	モモハモグリガ	—	やや少					
ウメシロカイガラムシ	やや遅	並						

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年より少なかったことから、伝染源となる種籾は平年より少ないと考えられる。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代幼虫) 少
縞葉枯病 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は71頭で平年(135.2頭)より少なかった。

イ. 県予察圃場(休閑田)におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は11.0%で、平年(3.5%)より高かった。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代幼虫) やや多
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくいとり虫数は118頭で平年(36.5頭)より多かった。

イ. 萎縮病は一般圃場において近年ほとんど発生が認められない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低いとされており、越冬後成虫の本田への飛込み時期は平年並と考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

(麦 類)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は60.9%で平年(71.3%)並で、発生程度は軽微であった。

(2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(19.6%)より低かった。

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作とし

たり、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月22～23日の巡回調査では平年同様発生を認めなかった。

イ. ジャガイモの生育は平年並で推移している。

ウ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査（南部）では、花腐れの発生圃場率は3.6%で平年（20.2%）より少なかった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 4月22日の巡回調査（越冬病斑調査）では、発生量は平年並であった。

ウ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因ではない。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 前年の発生量は平年よりやや少なかったことから、伝染源の越冬量も平年より少ないと考えられる。

ウ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因ではない。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であったため、伝染源の越冬量も平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ（第1世代成虫）

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査（南部）では、発生圃場率は3.6%で平年（3.9%）

並であった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～5半旬までの誘殺数は0頭で、平年(10.2頭)より少なかった。

ウ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低いとされており、特に発生を助長する要因ではない。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月23日と推定され、平年(4月20日)よりやや遅かった。なお、予測式から防除適期(幼虫ふ化最盛日)は5月8日頃と予測される。

イ. 越冬雌成虫の生存率は81.0%で平年(89.2%)並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 早 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月6日であり、平年(4月12日)より早かった。

イ. 4月1～5半旬の誘殺数は11頭で平年(48.4頭)より少なかった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来予測数は、チャバネアオカメムシは赤磐市が166.9頭(平年494.3頭)、津山市が147.3頭(平年327.5頭)とともに平年より少ないと予測される。クサギカメムシは赤磐市が16.9頭(平年16.9頭)、津山市が237.7頭(平年198.0頭)とともに平年並であると予測される。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低いとされており、発生時期はやや遅と予想される。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因ではない。

防除上の参考事項

ア. ブドウベと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌

剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤）に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤とできるだけ組み合わせて使用する（平成24年4月6日発表の植物防疫情報第2号参照）。

3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

（1）灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月22～23日の巡回調査によると、イチゴでは発生圃場率が37.5%で平年（15.6%）より高く、トマトでは50.0%で平年（33.0%）より高かった。キュウリ、ナスでは発生を認めず平年（0%）並であった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因ではない。

（イチゴ）

（1）うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（15.6%）より低かった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

（タマネギ）

（1）べと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月22～23日の巡回調査では発生を認めず、平年（発生圃場率40.6%）より低かった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

（ナス、キュウリ）

（1）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月22～23日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する要因ではない。

（アブラナ科野菜）

（1）アブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は230頭で、平年

(178.5頭) より多かった。

イ. 4月22～23日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は0%で
平年(7.0%)より低く、ハクサイでは0%で平年(41.3%)より低かつ
た。

ウ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低く、
降水量は平年並とされており、特に発生を助長する要因ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は10頭
で、平年(24.5頭)より少なかった。

イ. 4月22～23日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイでの発生圃場
率は0%で平年(22.3%)より低かった。

ウ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低く、
降水量は平年並とされており、特に発生を助長する要因ではない。

4. 花き類

(キク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は230頭で、平年
(178.5頭)より多かった。

イ. 4月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(25.8
%)より高かった。

ウ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か低く、
降水量は平年並とされており、特に発生を助長する要因ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。